

心身ともに大きな成長の中にある中学生だからこそ、感じるがあります。

その気づきや学びを自分の言葉にし、伝える活動の一つが「中学生弁論大会」です。

今だからこそ伝えることができる、中学生たちのまっすぐな声をお届けします。

特集2

中学生弁論大会



いわき南地区最優秀賞

湯本第三中学校3年 酒井 晴加

「つなぐ」

「うがみんしょーらん！」
この聞きなれない、外国語のような言葉は、鹿児島県奄美大島の方言で「こんにちは」や「こんばんは」という意味です。人と会った時や家を訪ねた時によく使われるあいさつです。
私は小学六年生から中学二年生までの三年間、いわきを離れ、鹿児島県の奄美大島で離島留学をしていました。そこで、この「うがみんしょーらん」という言葉に出会いました。「うがみ」は「拝む」という意味で「お顔を拝ませてもらいますね」という、とても丁寧なあいさつの言葉になっています。相手を尊重し、人と人とお互いに拝み合うというあいさつの言葉。人を敬う心を表した、素敵な奄美の言葉です。そして、奄美では子どもは宝とされ、地域の大人が子どもを見守るのは当たり前。日頃から年齢の違う友達や世代を超えた交流が盛んで、人と人とながりを実感する機会がたくさんありました。そんな温かい島が私は大好きでした。

さて、三月にいわきに戻った私ですが、ここのいわきは、奄美に比べ、地域の人たちとの交流が少なく、あいさつをしても小さくお辞儀されるだけだと感じています。また、下校途中に「おかえり」と声をかけられることはほと



いわき北地区最優秀賞

好間中学校3年 岡本 証志

「共に生きる」

皆さんは「障がい」という言葉から、どんなことをイメージしますか？体が不自由な身体障がい、知的な障がい、精神的な障がいなど、さまざまな障がいがあり、個人差もあります。
私は以前から、障がいのある方とう関わりあって生きていけばよいかと考えていました。また、障がいのある方の生活について、よく知りたいとも思っていました。頭で考えているだけでは何も解決しないので、私は実際に施設へボランティアに行くことにしました。
ボランティア初日こそ不安でいっぱいでしたが、その気持ちは瞬間に消え去りました。施設を利用している方のほうから話しかけてくださったからです。私は、ボランティアに、のべ二十三回うかがいましたが、日を重ねるごとに、たくさんの方が私の名前を覚えて目が合えば微笑んでくださいました。毎日がとても楽しく過ぎていき、最終日には、一人の方から手紙を手渡されました。
そこには「一緒に遊んでくれてありがとう。また遊ぼう。」と記してありました。私も同じ気持ちだったので、思いを共有できたことを嬉しく思いました。

そして、私は、長年思っていた問い

の答えが出たように感じました。それは……「彼らと共に生きていきたい。」ということでした。

共に生きるということについて考えさせられる出来事がありました。利用者の方の買い物に同行する機会がありました。彼らにとっては、特別なことのように、とても楽しみにしている様子が見えました。私は彼らのウキウキとした表情に、少し違和感を覚えましたが、スーパーに買い物に行くという当たり前の活動なのに、特別なことになってしまっている――。考えてみると、普段の生活では、障がいのある方と、健常者と言われる私たちが共に接したり活動したりする機会は少なく、隔たりがあるように思います。これでは、自分とは違う人たち、という考えを持ってしまいがちです。そしてこの思いこそが「差別」や「偏見」の始まりではないでしょうか。

共に生きるためには「同じ人間である」という仲間意識を持つことが大切です。誰もが得意なことあれば、不得意なこともあるように、障がいのある方にもできることと、できないことがある……こう捉えていくことはできないでしょう。

よくバリアフリーという言葉を目にしますが、いくら環境が整ったとして

も、私たちの中に「偏見や差別」といった心の壁がある以上、共に生きていくことにはなりません。どうすればよいのでしょうか。

最終的には、私のように「共にある喜び」を感じることが一番です。

そのためにまずは、関心をもつことだと思います。障がいのあるなしにかかわらず、他人に無関心な社会は、結局自分が困ったときも助けを得ることはできない寂しい社会です。他の人に関心を持つことが、共に生きるための第一歩になると考えます。

次に、知ることです。障がいのある方たちを取り巻く現状や困りごとを知ろうとすることが大事です。誰も知らないことには警戒や遠慮の気持ちが芽生えます。知ることによって互いの距離が近くなり、不自由なことがあれば手を差し伸べることもできます。そしていっしょに、違いを受け入れて、互いに尊重し合う社会、誰にでも開かれた優しい社会が築かれていくと思います。
皆さん、想像してみてください。誰もが安心して、笑顔でいられる優しい社会を――。今日もスーパーでは障がいのある方もそうでない人も一緒に買い物をしています。そんな日も、私たちみんなが望めば、いつか実現していくことと信じます。

んどありません。いわきのような大きいコミュニティだと、やはり島のような密接な関わりは難しいのかもしれない。でも、私は自分が住むこの温かい街にしたい。温かい街にするために、私は二つのことを提案します。

1 自分が住んでいる地域の人とながら。そのために、まず、あいさつは自分から。もちろん笑顔で。自分だけではなく、友達と一緒に実行することがポイントです。やはり、人と人とながらる第一歩として、あいさつは外せないでしょう。

2 自分から情報にアクセスする。今は、SNSを通してイベントやお店など、地域のたくさんの方の情報が発信されています。実際に私も、いわき市について調べてみました。始めはいわき市のホームページ。すると、花火大会やアクアマリンの情報が載っていて、行きたいなと思いました。次に大好きなラーメンについて、いわきのランキングを調べてみました。すると、よく行くラーメンのお店が一番だったので、すごく嬉しくなりました。二番目のところには行ったことがなかったので、行ってみたいなと思いました。

このように、自分が住んでいる場所について調べ、知ること、さらに愛

着を持つことができるようになるでしょう。もちろん、SNSの使い方には十分に注意しなければいけません。知ること、興味があわく。興味がわくと行ってみたくなる。行くと、そこにいるさまざまな人とながることができる。つながる人が多くなるほど、笑顔が多い温かい街になると思います。

なんだ、そんな簡単なことか、と思う方もいるかもしれません。でも、そう感じるような簡単なことからこそ、じゃあやってみようかとやってみる人も増えるのではないのでしょうか。

離島留学から帰ってきた私の夢は、自然や文化、芸術を通して、人と人が集う、つながる場や空間を作り出すことです。そして、その地域が持つ魅力をたくさんの人に知ってもらいたい。また、その地域が持っている課題を見つけて、それを魅力に変え、笑顔があふれる温かい街にしていきたい。そして、私がお手伝いした温かい街を、たくさんの人に素敵な街だと感じてもらいたい。人がつながる素敵な街を作るために、私はつなぐ人になりたいと思います。